西伯小だより

SINCE 1967
令和８年 10 月６日
NO.500

南部町立西伯小学校
〒683-0351
南部町法勝寺 336 番地
☎0859-66-2215

■学校教育目標：ふるさとに誇りをもち、夢や目標に向かって、仲間とともにたくましく生きる児童の育成

祝「西伯小だより」第500号！

校長 安達 嘉也

記念すべき第 500 号となりました。節目の学校だよりを起稿できる幸せを感じています。

過去の節目となる学校だよりを調べたところ、第 400 号は平成 29 年６月 16 日に発行されていました。当時の校長先生は、野口高幸先生、創立 50 周年記念式典、プールの完成お披露目式の様子が書かれていました。野口校長先生の式辞の一部が載っていましたので、紹介させていただきたいと思います。

新しい西伯小学校が誕生して、満 50 歳です。その間、昨年度までに卒業した児童は、4911 名を数えます。今ある西伯小学校は、歴代の校長先生を始め、教職員の皆様の熱意と努力、そして、これを支えてくださった保護者、地域の皆様の深い愛情とご理解、ご支援により築き上げられたものです。これからも、先人を想い、伝統や文化、歴史を大切にすること、そして、郷土を愛し、感謝する気持ちをはぐくむ西伯小学校教育を積み上げていきたいと思っています。今日の式典に向けて、児童代表の６年生がメッセージを送ってくれました。その中に、「支え合い」「助け合い」という言葉があります。その言葉通り、私たち教職員は、児童と共に、「みんな」で、50 年の時をかけて築き上げたこのすばらしい西伯小学校の伝統を受け継ぎ、守り育てるとともに、本日を新たな出発点として、「あいさつと笑顔があふれる学校」「日本一気持ちが通じ合える学校」をめざして、全力を尽くしてまいりたいと思います。

第 400 号から９年が過ぎ、現在 60 年目を迎えています。その間、感染症による教育活動の制限、ICT の急速な普及等、時代が大きく変わる中でも教職員の熱意と努力、保護者、地域の皆様の深い愛情とご理解、ご支援は不変であり、郷土を愛し、感謝する気持ちを育む本校教育は確実に歩みを進めています。また５０周年記念式典で代表メッセージを述べた児童は、鳥取県での教職を目指し、現在本校で教育実習中です。私たちの鳥取県、南部町の将来を担う子ども達が確実に成長していることを嬉しく、誇りに思います。

本校の伝統を受け継ぎ、守り育てるとともに、今年度のテーマである「自分の考えを持ち、伝え合う楽しさを感じる」学校づくりを推進し、野口校長先生が述べられた「日本一気持ちが通じ合える学校」を目指して取り組んでいきます。

■ありがとうございました

８月に行われた「第３１回ふれあいチャリティー芸能大会」において、南部町内の小・中学校、こども園・保育園への寄付を目的とした募金箱を設置されたところ、来場者の皆様から多くのご寄付があったそうです。先日、実行委員会様より、図書カードをいただきました。子どもたちのために図書館に新しい本を購入させていただきます。ありがとうございました。

■5年生宿泊体験学習

９月１７・１８日に、５年生の宿泊体験学習を行いました。青年の家に宿泊して、イニシアティブゲーム、カヌー体験、野外炊事など様々な活動に挑戦しました。家族から離れ、自分のことは自分でする姿や仲間と協力して活動をやり遂げる姿に５年生の児童の成長を感じました。青年の家では指導員さんの話をよく聞き、進んで行動する子ども達のことをとてもほめていただきました。今回の体験で、また一つ自信がついたのではないでしょうか。今後の学校生活に生かしていってほしいと思います。





■4年生県立美術館見学

９月１６日に、４年生は校外学習でバスに乗って県立美術館見学に行きました。美術館では、ファシリテーターの方と一緒にグループに分かれて、作品鑑賞をしました。子ども達は、一つの作品を近くから観たり遠くから観たりと様々な見方を工夫して作品のよさを感じていました。ファシリテーターの方からの問いかけに対して、自分の感じたことを積極的に伝え友だち同士でそれぞれの感じ方を交流しました。最後に、気に入った作品を選び、一生懸命にスケッチをする姿が印象的でした。





■ふるさと学びウォーク

１０月２日には、ふるさと学びウォークを予定通り実施することができました。今年度は、天候にも恵まれ、気持ちよい秋晴れの中、たくさんの地域の皆様にご協力いただき、安全に行うことができました。子ども達は、Ａ、Ｂコースに分かれ、それぞれのチェックポイントを縦割り班の仲間と協力しながら回りました。１年生の歩く速さに合わせて手をつないで歩く姿や、荷物を持つなど助け合いながら歩く姿、中には、ゴミ拾いをしながら歩く班もありました。子ども達にとって、良い経験になったことと思います。保護者の皆様にも、様々な準備をしていただきまして、ありがとうございました。

